

Marcela Present's 徳島聖テモテ教会から愛をこめて

も テモテ通信

Vol.14 2023 Summer 号

残暑お見舞い申し上げます。



お暑うございます。お元気ですか？

日本全国、どこでも猛暑、酷暑の日が続いています。36度など「体温か?!」と思うようですし、挙げ句の果てに、いくつかの地方では40度なんて信じられない気温になったところもあるようです。皆さま、どうぞ、涼しくしてお過ごしください。

テモテ教会入り口の花壇は、菜の花が終わったあとミニヒマワリを植えました。今は盛りを過ぎて、種の収穫を待っているところです。

菜の花の種を収穫していたとき、通りすがりのご婦人が、「菜の花、綺麗でしたね。楽しませてもらいました。次は何を植えるのですか?」と尋ねてこられました。夫が「今、裏庭でヒマワリの種を植えて苗に育てています。」とお伝えすると、「それは楽しみですね。」とってくださいました。その方が見てくださったのかわかりませんが、楽しんでくださっている方がいると思うと嬉しくなります。宣教の種まきの一つです。

【5月28日 聖霊降臨日】



徳島聖テモテ教会では、聖霊は「炎のような舌」でも「鳩」でもなく、「ヒヨドリ」によってもたらされるようです？！

聖霊降臨日の前からたまに、ヒヨドリが礼拝堂の窓をたたいてくるのです。聖霊降臨日も礼拝中、赤のストールを着けている宮田せんせえの横で何度もたたいていました。どうも、窓に映った自分の姿をライバルと勘違いしてキック(威嚇)していたようですが、「聖霊を受けなさい」という暗示かもしれません。

そして、礼拝後は恒例の(?)「鳩サブレ」。今年は宮田せんせえ手作りでした。



【6月4日 三位一体主日】

6月は「プライド月間」ということで、宮田せんせえはレインボーのストールを着けました。そこで、礼拝の前奏を「She's a Rainbow」にしました。この日は第1日曜日でしたので、富岡キリスト教会に行き、前奏は時間が無くて弾けなかったのですが、説教前のほんの短い昇階唱として数節弾きました。礼拝が終わったあとに、最近来られた方が、「礼拝の中でローリングストーンズが聞けて嬉しかったです。今度、友達を連れてきます」といってくださいました。

「礼拝中にローリングストーンズなんて」と、眉をしかめる方もいらっしゃると思います。それでも、教会に来るきっかけはこんな些細なことで良いとわたしは思っています。どんなきっかけでも、「神の愛」「イエスがともにいること」を知り、日々の歩みの力になるのなら、大事な宣教の形のひとつだと思います。

宮田せんせえのレインボーのストールも一緒だと思います。それを着けることで何が変わるわけでもありません。でも、もしかすると性的マイノリティの方がYoutubeを見て、励まされることがあるかもしれません。あくまでも可能性の話ではありますが、「連帯」の意思表示をしていくことはとても大事なことだと思っています。



【7月16日 西原廉太中部教区主教・立教大学総長訪問】



この日から、毎年恒例、「朝8時のセミとのバトル」が始まりました。窓際、壁際で鳴いているのでそれはもう、「バトル」なのです。

そして、10時半の礼拝には、西原主教がお出でになりました。前日、大学のご用事で徳島にいらっしやり、この日の午前中はお時間があつたので、テモテ教会を訪ねていただきました。主教であり、総長でもある偉い方を前に、というより、昔から知っている「廉太さん」を前に「宮田くん」が説教をしているのがなんだかこそばゆい感じがしました。

【8月6日 主イエス変容の日・青年活動のために祈る日・広島原爆の日】

8時の礼拝の聖歌は、230番、231番(主イエス変容の日の聖歌) 421番(ヒロシマの聖歌) 526番(1996年の青年大会で作られた聖歌)にしました。

でも、思うのです。1996年の青年の歌は、今の青年の歌だろうか?と。古今聖歌集には「青年」という項目があり、そこに今の聖歌集の478番「聞けや愛の言葉を」が入っていたので、60代以上の方にとっての「青年の歌」はこの「聞けや愛の言葉を」かもしれませ

ん。今50代のわたしにとって「青年の歌」は、90年代に青年大会や青年の集まりで作られた、526番「見つめることから」や、576番「分かちあえる」なのですが、今の青年である、10代後半から30代前半くらいの世代にとっての「青年の歌」が何かリサーチしきれなかったことを少し後悔しています。時代、年代によって聖歌の認識は異なり、聖書解釈ですら変わっていきます。その「変化」を自分事として受け入れることの大切さを、イエスが変容した日に考えさせられました。

(写真はこの日、富岡キリスト教会での礼拝の帰りに立ち寄った、「北の脇海水浴場」です)



【8月13日】



この日は、芳我司祭司式の聖餐式でした。世間的には「お盆」だったので、清水望さんが礼拝に来られました。今お住まいの金沢から4時間かけてバスで大阪に出て、またバスを乗り換えて徳島まで来られたそうです。「16日に帰る予定だけれど、橋が通れるか心配です」とおっしゃっていましたが、台風は15日の内に通り過ぎていたのでご無事だったようです。またお会いできる日を楽しみにしています。

【8月17日】

台風の影響で雨と風の強い日が続きました。この日も夕方まで雨が降っていましたが、止んで晴れ間が出てきた頃、大きな虹がかかりました。教会入り口のレインボーフラッグとともに写真を撮りました。皆が連帯していけますように。



テモテ教会 より

☆オンライン礼拝

毎日曜日の礼拝は、zoomで参加できます。

ミーティングID 864 7089 7046 パスコード 481359

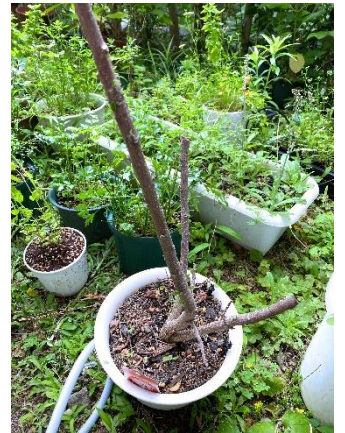


zoom

人間の思い込み

2年前の8月、富岡キリスト教会の帰りにスーパーマーケットのディオに寄った。開花時期がすでに終わり、水やりも適当になっていた小さなハイビスカスが100円で売られていた。最後の投げ売り。来年の開花を楽しみに買ってみたいと思い立ち、カゴに入れて連れて帰ってきた。さっそく植え替えをしてたっぷりの水をやって様子を見ていた。ひと月したら蕾が付き、まっ赤なハイビスカスが花開いた。と思ったらその日の内に花がしおれた。ハイビスカスの花は一日しか咲かないことを初めて知った。やがて次から次に蕾が付き、まっ赤なハイビスカスが咲き続けた。四国徳島の気温でも屋外の冬越しは難しいことを知り、室内で冬越しをした。

翌年はどんどんと大きくなり花が次々に咲いた。あまりにも成長が早いので少し困惑しつつ、そこそこ立派になったので2年目は屋外での冬越しに挑戦してみた。雪が降ったこともあり、葉が全部落ちてしまい今年の春にはすっかり枯れ木となってしまった。新芽も出てこなければ、枝先から徐々に乾燥して枯れが進んでいる。冬越しは出来ないとされていたからあきらめつつも、植木鉢に植えておいても邪魔じゃないから乾燥した枝だけ払ってそのまま放置しておいた。だれが見ても枯れ木で、そのまま捨てられても仕方がない状態。周りの花々や木々は花を咲かせ、たくましく成長していく中、ハイビスカスの枯れ木だけがゴミのように止め置かれていた。



6月も中旬を過ぎた今年の梅雨の最中、その枯れた幹から小さな緑の新芽が芽吹いてきた。やがて、枯れていたと思われる幹全体から新芽が一斉に芽吹いてきて青々と茂り始めた。この原稿を書いている8月末の時点では花芽はついていない。来年の花芽を付けるための成長の年なのかもしれない。春先は植木鉢から取り出してさっさと捨ててしまおうと思ったこともあった。空いた植木鉢に次の植物を植えることも考えた。でも、本当に枯れているかどうかはわからないし、一年放置して芽吹いてこなければ本当に枯れているのだろうと考えられるし、自分のずぼらさからも片付けるのが面倒くさいし、というのもあって、そのままにしていた。クリスマス前になると聖歌72番「エッセイの根」を歌う。エッセイの根とは、『一度切られ、終わったと思えるダビデ王朝から、再びその根から新しい芽が出て、今度はまことの救い主が現れるとの預言を示す言葉』。人が勝手に思い込み枯れたと置いていても、その生きる力を信じるのが大切だと思わされた今年の夏です。



韓国の女性アーティストが日本の音楽フェスティバルで性被害に遭ったことをSNSで被害を訴え、主催者が刑事告発しました。とても勇気のいる正しい行動だと思います。「カナン」もイエスに助けを求めるのはとても勇気が必要だったろうと思うのです。女性アーティストが露出の多い衣装であったことを非難されたように、カナンも、異邦人であるからと拒否されてしまいます。衣装とか、異邦人とかは問題ではないのです。被害に遭った、困っている「事実」が問題なのです。イエスはカナンを聞き、女の娘を癒されました。わたしたちも社会的に小さくされている人の訴えを聞き、ともに行動していきたいです。教会が誰にとっても安心できる場でありますように。

マルセラ宮田美樹

2023/8/22発行